

論文要旨

氏名	板家 朗
タイトル (日英併記)	どのようにして研修歯科医は主体的な診療実践ができるようになるのか
論文の要旨 (日本語で記載)	
【緒言】 研修歯科医は一人の歯科医師として、指導者の下で自らの判断と責任において歯科医療を実施することが求められている。医科の先行研究では研修医が診断と治療を行うことは彼らの専門的な知識の獲得に寄与するとされている。しかしながら、研修医が主体的に診療するようになる具体的な経験や成長のプロセスは歯科・医科のどちらにおいても明らかになっていない。本研究の目的は、研修歯科医が自らの判断と責任において主体的に診療に参加するようになる成長のプロセスを明らかにすることである。	
【対象と方法】 対象者は研修開始から8か月以上経過した16名の研修歯科医とした。対象者に臨床研修中の成長について半構造化インタビューを行った。分析は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。	
【結果及び考察】 研修歯科医の成長プロセスは①指示通りの診療、②能力の認識、③主体的な診療の3つにカテゴリ分類することができた。これらのストーリーラインは「研修歯科医は診療に対して不安を抱いており、指示通りの診療をしていた。その後、診療した経験を振り返ることや指導医からの助言を通して診療の方法が確立し、自己の能力の理解が進んだ。そして、余裕が生まれ視野が広がり、1歯だけでなく1口腔の診療を考えるようになることで主体的に診療に参加できるようになった。」であった。 研修歯科医が主体的に診療するようになるまでの経験や認識を記述できた点で、本研究は臨床教育における学習プロセスに有用な示唆を含むものである。	